

令和4年度 国富町立木脇小学校 学校評価・自己評価書

【学校経営ビジョン】 「目がとどく、声がとどく、心がとどく」教育の実践と教職員の指導力・学校の組織力の向上によって、「自ら学び、量か心とたくましい体をもち、自分のよさを発揮しながら、進んで実践する児童の育成」を図る。		4段階評価 4:達成(期待以上) 3:ほぼ達成(ほぼ期待どおり) 2:不十分(やや期待を下回る) 1:改善を要する(期待を下回る)						
評価項目(指標)	具体的目標	方策・手立て	自己評価				学校の自己評価コメント (○:アンケート結果、◇:結果の考察・分析と改善策等)	
			児童	保護者	教師	総合		
進んで学ぶ子を育てる	1 基礎的・基本的な内容の定着	○学習5つのきまりを守れていると答える児童が80%を超える。 ○授業がよく分かると思えた児童が80%を超える。 ○学習時間(集中して取り組んでいる時間)が、学年の目安時間を上回った児童が80%を超える。	○学習5つのきまりを徹底する指導を行う。 ○児童が「わかった」「できた」と言える授業づくりを行う。 ○毎日の学習のふり返りや次の学習への見通しをもてるように、家庭と連携し、手立てを講じて学習に取り組むことができるようにする。	3.4	3.2	2.5	2.7 ○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・授業はよくわかる・・・児童88.5% 保護者78.5% ・ICT機器を使って学習できる・・・児童90.6% 保護者82.4% ◇学習の5つのきまりについては、主に授業中に繰り返し指導してきた。しっかりと定着が図れるように、今後も根気強く取り組む必要がある。「分かった」「できた」と自信がもてる児童がいる一方で不安に思っている児童もいる。授業改善を図り、児童のサポートの仕方を工夫したい。ICTの活用レベルは上がってきている	
	2 学習意欲の向上	○児童がICT機器(タブレット等)の使い方を理解し、学習の内容理解を深めるために自分の考えや意見を伝えることができる児童が80%を超える。 ○考えを伝え合ったり、進んで発表したりすることができたという児童が80%を超える。	○体験活動や言語活動の充実を図り、学ぶことの充実感・達成感のある授業を行う。 ○児童が基礎的・基本的な内容をより深く理解するために、機器の使い方(ルールやマナーも含む)を指導し、活用の仕方(発表やドリル等)を学ばせ、どの教科にも生かして自分から考えや意見を言えるようになる。	2.8	2.5	2.8		
	3 読書活動の推進	低学年は月10冊、中学年は月6冊、高学年は月3冊以上読む児童が80%を超える。	読書環境の充実を図り、読書を啓発するポスターやお勧めの本を知らせる掲示、委員会活動を中心とした読書ビンゴ等に取り組むとともに、学期1回の多読賞、読書の日への取組の推進を行う。	2.8	2.2	2.3		
思いやりのある子を育てる	1 規範意識の高揚	学校や家庭、地域が連携を図り、時と場に応じたルールやマナーを守る児童の育成を目指す。(きまりを守る児童100%)	家庭や地域に「生徒指導だより」や「まちコミメール」等で情報を発信するとともに、児童に集会や授業等できまりについて話し、常時指導を行うことで、規範意識を高める。	3.5	3.2	2.6	3.0 ○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・交通ルール・学校のきまりを守る・・・児童92% 保護者92% ◇校内における廊下歩行や無着の場、校外における横断歩道の渡り方等についての指導をさらに充実させる必要がある。また、当たり前のことが当たり前にできるような習慣化(名札の着用、時間を守る等)をさらに図っていく必要がある。 ○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・大きな声で気持ちよいあいさつ、お礼・・・児童86% 保護者69% ◇計画していた「あいさつ運動」は実施できなかった。計画委員会を中心とした各学級の輪番による「あいさつ運動」を実施し、児童が主体的にあいさつに取り組めるようにしたい。児童のあいさつに対する意識を高め、地域でのあいさつにも広げたい。	
	2 あいさつ・会釈の啓発	気持ちよいあいさつや会釈をすることができる児童が80%を超える。	木脇小・中及び保護者、地域住民との連携を図り、あいさつ運動を推進するとともに、会釈の指導と実践できた児童への称賛に努める。	3.4	2.8	2.5		
	3 思いやり(感謝や貢献の心)	思いやりのある言動ができると答えた児童(保護者)の割合が70%を超える。	道徳や人権の時間の指導を充実させるとともに、教育活動全体を通して、思いやりの心を育み、ボランティア活動の自発的・自主的な取組やよい行いをした児童を積極的に称賛していく。	3.4	3.1	2.7		
たくましい子を育てる	1 体力や運動能力の向上	休み時間・体育の時間に、進んで体を動かしている児童が70%を超える。	体育の時間の指導を中心に、運動の喜びを味わわせるとともに、昼休みに週2回以上外遊びを行うように啓発する。	3.4	3.1	2.9	3.0 ○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・楽しく運動したり、外で遊んだりしている・・・児童82.6% 保護者81.2% ◇個人の嗜好の偏りにより過ごし方が固定化している傾向もみられる。昼休みには外遊びに意識が向きやすいように啓発を行う。 ○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・友達への優しさ・思いやりのある行動・・・児童90% 保護者88% ◇回っている友達に声をかけたり手伝ったりする行動が見られるが、言葉遣いや名前の呼び方については課題が残る。その場での指導を確実にするとともに、道徳教育並びに人権教育の充実とさらに努めていく。	
	2 健康的な生活習慣の確立(新型コロナウイルス感染症予防)	手洗い・うがい、消毒、マスク着用等の感染症予防や立腰に努める児童が70%を超える。 メディアコントロールを含む基本的な生活習慣の確立に努める児童が70%を超える	感染症予防・衛生指導を徹底し、病気の予防、安全意識の啓発や立腰指導の徹底を図る。 生徒指導部と連携し、メディア使用を含む基本的な生活習慣について常時指導を行い、児童の意識の向上を図る。	3.4	3.2	2.7		
	3 食のマナーの徹底	食事のマナーを考えながら、食事ができる児童が70%を超える。	気持ちよく食事をするためのマナー指導を行う。 栄養教諭と連携し、バランスの取れた食生活習慣作りを啓発する。	3.5	2.8	2.5		
開かれた学校をつくる	1 家庭や地域への情報の積極的な発信と共有	まちコミメール登録数を95%以上にし、常に情報発信を行い、共有できる体制作りをする。 通信やホームページの更新などを月1回以上定期的にを行い、情報発信に努める。	学校通信・学級通信等を発行し、児童の教育活動の状況を知らせ、情報の共有を図る。 学校ホームページやまちコミメールを効果的に活用し、児童の活動の様子や緊急を要する連絡が速くできるようにする。	3.1	2.7	2.9 ○保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校文書、通信、ホームページ等で、学校の取組や児童の様子がよく分かる・・・82.4% ◇学校通信は定期的に、学年・学級通信は随時発行している。まちコミメールについても効果的に活用できている。ホームページは更新が進むときとそうでないときがある。更新方法の工夫により、情報提供に努めたい。		
	2 コミュニティスクールとしての取組を核とした各種連携・協働の推進	学校運営協議会を中心として、地域と学校が目標を共有し、協働による活動を推進する。 コミュニティスクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、地域人材の積極的な活用を図る。 キャリア教育に関心をもち、自分の将来について考えさせる。	学びと体験の共有を目指した校外学習等を企画し、地域の守り人対活用を積極的に図る。活用した人材に関しては、記録を残し、今後の財産として共有し、活用できるようにする。 キャリアパスポートを活用して、今後の自分の生き方について考えることができる機会を作る。				3.0	2.8
	3 関係機関との連携	連携型小中一貫教育を推進する。 幼保小中連携や青少年育成協議会、社会福祉協議会等との連携・協働を行う。 町福祉保健委員、民生委員、児童役員、スクールソーシャルワーカー等との連携を行う。	小中学校職員の共通理解をもとに9年間を通して児童を育てる。 参観日やオープンスクール、PTA行事等の保護者の参加率を高め、児童と地域の方々の交流を図る。 地域の方々と情報を共有したり、気になる児童に対して関係機関と協力したりして、児童の健全育成を図る。				3.0	2.8
特別支援教育	1 教育的ニーズに応じた指導や支援の充実	学期に1回のアンケートで「学校が楽しい、どちらかと言えば楽しい」と答える児童が80%を超える。	人権の時間に相互理解が出来るような活動を行い、児童相互の交流を深める。 月1回のこにこアンケートを実施し、共通理解を図り、指導支援に活かす。	3.0	3.1	3.0 ○保護者アンケート結果で3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校は、常に児童理解に努め、児童の実態に応じた指導を行ったりしていますが・・・80.8% ◇結果を過信せずに、今後も継続した支援体制を作っていくたい。 ○保護者アンケート結果で3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校は、教師間で連携をとって指導にあたり、支援ができる体制を作っていますか・・・75.9% ◇全体的にはいいが、不登校などの対応については、職員の共通理解の場を設定するタイミングが難しい。こにこ委員会(いじめ・不登校対策委員会)と担任との連携をさらに深める工夫をしていきたい。		
	2 校内の支援体制や環境の充実	学期に1回のアンケートで「学習のことで困っていることがありますか」ではいと答える児童が20%を下回る。	教師間の連携を図り、実態を把握し、共通理解のもと学校全体で指導や支援をしていく校内支援体制作りを努める。	3.0	3.1			